

3 R 高級事務レベル会合の概要

[日時・場所]

2006年3月6～8日、東京(JICA国際協力総合研修所)

[参加国・国際機関]

G8を含む20ヶ国及び関係国際機関(UNEP、OECDなど)

[主な議題]

各国の国内での3Rの推進とグローバルな3Rの推進(循環資源の越境移動と環境保全の確保)

[主な成果]

- 各国・国際機関において、3Rに関する取組が進展していることを確認。
- 国内での3R推進の鍵としてリサイクルなどの法制度の確立や拡大生産者責任の導入が挙げられ、国際的な循環資源の移動について技術的・実践的なガイドライン整備の有用性が指摘されるなど、活発な意見交換が行われた。
- 日本がアジア地域で3Rを推進していくことについて、各国が歓迎。
- 2006年G8議長国のロシア、2007年G8議長国のドイツが共に3RイニシアティブをG8プロセスで取り上げる意向を示し、日本がG8議長国となる2008年に向けて、3R推進の道筋が明らかになった。

G 8 サンクトペテルブルグサミットでの合意

Global Energy Security

St.Petersburg, July 16, 2006

ST.PETERSBURG PLAN OF ACTION GLOBAL ENERGY SECURITY

. Enhancing Energy Efficiency and Energy Saving

19. As part of an integrated approach to the entire resource cycle we reaffirm our commitment to comprehensive measures to optimize the resource cycle within the 3Rs Initiative (Reduce, Reuse, Recycle). In furthering those efforts, we will set targets as appropriate taking account of resource productivity. We will also raise awareness of the importance of energy efficiency and environmental protection through national as well as international efforts.

世界のエネルギー安全保障

サンクトペテルブルグ、2006年7月16日

サンクトペテルブルグサミット行動計画

. エネルギー効率及び省エネルギーの向上

19. 我々は、全体的な資源循環への一体的な取組の一部として、3Rイニシアティブ(発生抑制(リデュース)、再使用(リユース)、再生利用(リサイクル))において資源循環を最適化するための包括的な措置に対する我々のコミットメントを再確認する。この努力を更に進めるために、我々は、資源生産性を考慮して、適切な場合に目標を設定する。我々はまた、各国の及び国際的な努力を通じて、エネルギー効率及び環境保護の重要性に関する認識を高める

アジア 3 R 推進会議の概要

[日時・場所]

2006年10月30日(月)～11月1日(水) 東京・三田共用会議所

[参加国・国際機関]

アジアの19カ国及び8国際機関の担当部局長・次長が出席

[結果概要]

- 会議では、3 Rの総合的な推進に加え、生ゴミの3 Rや、電子電気廃棄物(E-Waste)の3 R、医療廃棄物対策について、各国、国際機関や国際的なNGOのネットワーク、企業などからそれぞれの3 Rに係る具体的な取組が紹介され、活発な議論がなされた。
- 参加者はアジアにおける3 R推進の重要性を共有するとともに、今回の会議がアジア各国、国際機関の政策担当者が3 Rに関し議論する初めての機会となったことを評価した。
- 今後もアジアで3 Rを推進するために、従来からの取組の他、「3 Rナレッジハブ」(情報拠点)の推進や、「アジア環境・保健に関する地域フォーラム」の廃棄物作業部会もフォローアップの場の一つとして活用していくことで意見が一致した。

国際的な循環型社会構築に向けて

課題

基本的な考え方
(平成18年版循環型社会白書)

・ 廃棄物の発生
の増大と質の
多様化による
不適正な処理

・ 循環資源の越
境移動の活発
化による国内
外の廃棄物処
理・リサイクル
システムへの
影響

・ 資源価格の高
騰

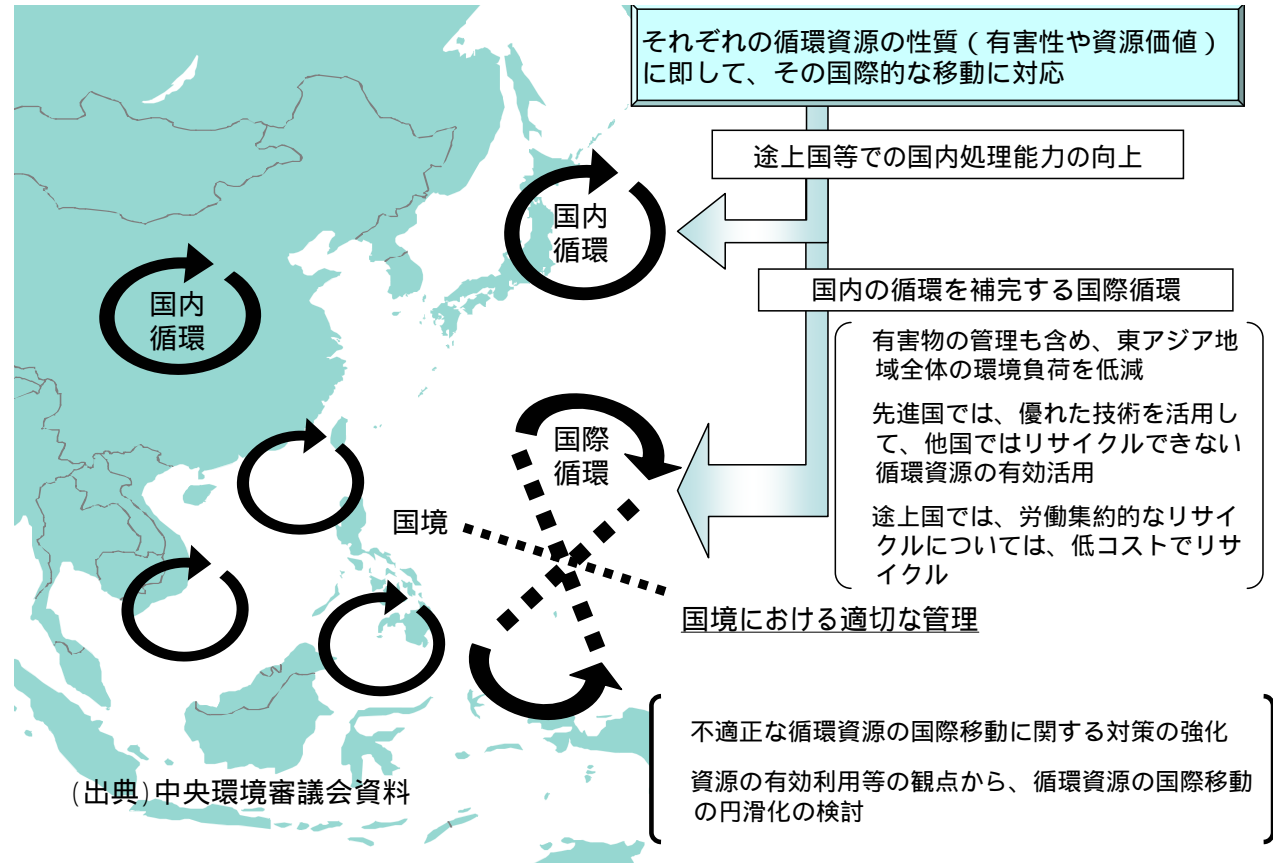
国際的な循環
型社会を構築
するために、

まず各国の国
内で循環型社
会を構築し、

廃棄物の不法
な輸出入を防
止する取組を
充実・強化し

その上で循環資
源の輸出入の円
滑化を図ること
が必要。

国際的な循環型社会のビジョン



我が国は、G8議長国となる2008年を目指して3
Rイニシアティブの推進に向けてリーダーシップ
を発揮

アジアにおける3Rの推進

課題

- ・廃棄物の発生量の増大と質の多様化
- ・廃棄物や循環資源の国境を越えた移動
- ・資源価格の高騰

アプローチ

3R (Reduce, Reuse, Recycle) の推進と廃棄物の適正処理

資源及び原料のより効率的な利用と環境への影響の低減

アジア3R推進会議の開催

日付: 2006年10月30日 ~ 11月1日
場所: 東京
議題: 3Rの推進
生ごみ、E-Waste、医療廃棄物

3R国別推進戦略の策定支援

・タイ、ベトナム、インドネシアにおいて3R国別推進戦略の策定を支援
・JICAマレーシア廃棄物減量化計画調査

日本の経験を発信

廃棄物・リサイクル政策に関する日本の経験を取りまとめたレポートを発表

活動

E-Waste対策

・アジア太平洋地域におけるE-Wasteの適正処理地域行動計画の実施
・アジアにおける適切な中古品リサイクルシステムの構築

不法輸出入の防止

・有害廃棄物の不法輸出入防止に関するアジアネットワーク
・適正な輸出入確保のための国際ガイドラインの策定

国際機関等と連携

国連環境計画(UNEP) 国連アジア太平洋経済社会委員会(ESCAP) 国連地域開発センター(UNCRD)
バーゼル条約事務局 アジア開発銀行(ADB) 地球環境戦略研究機関(IGES)

東アジア循環型社会ビジョンの実現へ

東アジアで共有すべき基本的認識

3 R 推進の考え方の共有

最終処分に対する基本的知識の普及

国民一人ひとりの参画と関係者の学び合い

アジアンスタンドアードの形成

社会経済システムの変革を進め、
東アジア地域での適正な物質循環を
確保した、
「東アジア循環型社会ビジョン」を
構築

東アジアにおける循環型社会の実現

2012年(平成24年)の構築へ

